

事業名	情報学習事業 スマホ講座				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
平成31年度			報償費167,200 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費88,000	
令和2年度			報償費167,200 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費132,000	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	西河原公民館のもつ機能を市民が生かし、活用できるようにする。	持続可能な開発目標 (SDGs)			
事業内容	開催頻度	年間2回(1回につき3日間)			
	新規・継続	継続	実施主体	市	
	実施対象	市内在住・在学・在勤のスマホ所有者	参加者数	延53人	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	10月15日号と1月15日号の広報こまえて各3回ずつの募集をかけ、すべて当日で申し込みが満員となった		公民館 A	公運審
				全体	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	講師2名、補助として公民館職員2名の計4名体制で、スマホの操作に戸惑う方にはすぐに個別に対応できた。ただその個別対応のために、参加者とスタッフがじゅうぶんな距離を取れない場面もあった。		公民館 B	公運審
				全体	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	初心者向けの講座で、ほとんどの参加者がスマホの電話やメール機能しか使えない高齢者だった。が、アンケートで「半歩前進した」「こんな機能があるんだと感心した」「QRコードなど、手に取りやすくなりそう」など、たくさんの好意的な評価をいただいた。		公民館 A	公運審
				全体	
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	スマホに触ることに多少なりとも慣れ、アプリ使用に興味を持っていただくことができた。また、公民館の事業に初めて参加する人が半分以上だったことから、高齢者の社会参加を促すことができたと考えられる。		公民館 A	公運審	
			全体		
＜発展性＞ ・参加者の学びの意欲を促進できたか ・新しいコミュニティの形成に役立ったか	アンケートで今後の希望を聞いたところ、学びたい項目が多く挙がり、「次回もよろしく」「継続してください」などの感想もいただいた。ただ、新型コロナ感染予防で参加者同士の席をかなり離れたこともあり、あまり参加者同士の交流は見られなかった。		公民館 B	公運審	
			全体		
今後の課題	・講座中に個別対応が必要になることが多く、どうしても大人数での講座を実施できないが、できるだけ多くの方に参加していただける方法を考えていきたい。 ・iPhoneとアンドロイドでは、操作方法や画面が違うことがたびたびあり、進行に時間がかかった。今後は別々に講座を実施することも検討する必要がある。				
総合評価	応募段階でかなりの申込みをお断りしていることから、スマホ講座のニーズが大きいことがよくわかった。初めて公民館に来たという方に楽しんでいただけた一方で、スマホという個人情報の詰まった機械を扱っていることで参加者同士の交流に躊躇する方も見られ、また、新型コロナ感染予防という点からさらに交流に慎重にならざるを得ず、コミュニティ形成については今後に期待したい。				